
早期臨床実習を終えて

歯学部歯学科1年 河合美奈

歯学部に入學して間もないにも関わらず、歯学への知識は全くない私たちに将来の在るべき歯科医師像を示してくれた早期臨床実習。私はこれまで自分が将来、どのような歯科医師となり、どこで働き、どのようにして医療分野に貢献したいかが明確な理想が見えませんでした。しかし私は早期臨床実習という歯学の本格的な知識を得たり、実際の現場を見学できたりする貴重な機会を通して自分と向き合い、将来歯科医師として自分がどう在るべきなのかを考えることができました。また、入學して9か月が経とうとしている今、自分とは異なる人生観や価値観を持つ同輩や先輩、先生方と関わってみて将来の歯科医師として、人間として尊敬できる人達にたくさん出会いました。私は年上の人と話すことや大勢の人の前で話すことが苦手でしたが色々な人との会話を通して歯科医師として必要な様々な場面でのコミュニケーション能力が身についたように思います。さらに関わりがある人達の影響でこれまで悲観的で物事を前向きに捉えられなかった性格も以前よりはポジティブに捉えられるようになったり、周囲にも気配りができる余裕が生まれたり、大学生になってから人間としてたくさん成長できたと思っています。早期臨床実習や部活動という場では、診療科が多岐にわたっているということや将来的に歯科医師の人手不足に陥ってしまうということなど専門的なことから表立っていない現状までたくさんを知りました。また、患者役実習では実際に患者という立場になってみて初めて、歯科治療という恐怖感を拭うことの難しさや患者に歯の状態を正確に伝えることの難しさなど歯科医師に求められることが目に見えて分かりました。早期臨床実習を終えてたくさんの知識と経験と成長を得た今、歯科医師になることに自覚を持ち始めることができました。将来の歯科医師像を達成する

ために今の自分に満足せず、積極的に学び続ける姿勢でたいです。

歯学部歯学科1年 会田優仁

早期臨床実習Ⅰ・Ⅱは、一年次に歯科医療の現場に直接触れることのできる非常に貴重な機会でした。多くの診療科での見学や実体験を通じて、将来の歯科医師としての在り方や、医療従事者に求められる多角的な視点を深く学ぶことができました。

実習の中で特に強く感じたのは、患者さんの視点に立つことの難しさと、そこに寄り添うコミュニケーションの重要性です。車椅子実習では、実際に乗車することで、健常者が気にも留めない床の小さな凹凸や勾配のゆるい坂が、患者さんには強い振動や恐怖として伝わることを身をもって知りました。また、先生方が患者さんの年齢などに応じて対応を工夫し、患者さんに寄り添う様子も見学できました。これらの体験から、歯科医師に必要なのは高度な治療技術だけではなく、患者さんの心身の負担を想像し、言葉をかけ、不安を取り除く対話力であると痛感しました。

また、各診療科の見学を通じて、歯科医療が単に歯を治すことにとどまらず、患者さんの全身の健康やQOLを支える基盤であることも学びました。歯周病科で学んだ糖尿病などの全身疾患との深い関連性や、小児歯科や義歯診療科で見た、生涯にわたって「食べる」「話す」機能を守るための長期的な治療計画などを目の当たりにし、口の健康の重要性を痛感しました。

そして、こうした多岐にわたる配慮や高度な専門治療は、歯科医師一人で完結するものではなく、予防歯科から外科処置に至るまで、多職種が連携し、それぞれの専門性を発揮して患者さんを支えるチーム医療の現場に触れ、その重要性を学

びました。

歯科医師には技術、協調性、コミュニケーション力など多様な視点が求められていることを実習を通じて改めて強く実感しました。

最後になりますが、お忙しい中ご指導くださった先生方、実習に協力してくださった患者様、先輩方に心より感謝申し上げます。この実習で得た大きな気づきを大切に、今後の学業に一層精進していきたいと思えます。

口腔生命福祉学科1年 多賀谷 歩 楓

新潟での新生活が始まった4月、期待よりも大きな不安を抱え、歯科医療の世界に足を踏み入れました。4か月間の早期臨床実習を通して、歯科医療の意義を再確認することができました。実際に現場で患者さんと向き合う歯科医師や歯科衛生士の方々の姿に触れ、将来歯科衛生士として貢献したいという気持ちは、より明確なものになりました。

実習で行われたグループ討議で、私たちのグループは「嚥下」をテーマに考えを深めました。私は「嚥下」と聞いて、今まで「飲み込む動作」という単純なイメージしか持っていませんでしたが、グループ討議を通して、生活の質に直結するとても重要な機能であることを学びました。口腔内を清潔に保つことだけでなく、患者さんの食べる力そのものを守ることも、歯科衛生士の大切な役割だと深く理解することができました。

口腔リハビリテーション科の見学では、嚥下障害を持つ患者が使用している「とろみ水」を試飲しました。無味無臭で飲み続けることが簡単ではなく、この体験によって、患者さんが抱える日常的な苦痛や、水分補給が難しくなることで起こる脱水症状のリスクを身をもって実感しました。

また、診療室では歯科医師や歯科衛生士が患者さんの姿勢や顔の向きまで細かく調整し、安全面を意識しながら治療を行う様子を見ることができました。このような対応は、治療を円滑に進めているだけではなく、患者さんの安心感にもつながっていると感じました。また、それぞれの診療

科に共通して、患者さんとのコミュニケーションを大切にして信頼関係を築いていることを学びました。

今回の実習を通して、歯科医療は治療だけでなく、人々の生活そのものを支える役割を担っていると感じました。将来は地域医療の一員として、患者さんに寄り添える歯科衛生士を目指したいと考えています。今回の実習で得たものを大切にして、これから始まる学びに前向きに取り組んでいきたいです。

口腔生命福祉学科2年 月 精 実 来

早期臨床実習では、歯科衛生士や社会福祉士が実際に活躍している4カ所の現場を見学し、講義だけでは得られない多くの学びを得ることができました。実際の支援や医療の現場を自分の目で見ることで、専門職として求められる役割や姿勢について理解を深めることができたと感じています。

特に印象に残っているのは児童相談所の施設見学です。

見学前は、児童相談所は虐待対応が中心の施設というイメージが強くありましたが、実際には子供の発達の悩みや不登校、非行など幅広い相談も受け付けており、子どもだけでなく、保護者にとっても頼れる支援機関であることを学びました。一時保護所では、子どもを保護するだけでなく、退所後の生活を見据えた支援が行われていました。日課やきまり、学習支援を通して自立や再出発を支えている点が印象的でした。一時保護所は、子どもたちの安心・安全を確保する場であると同時に、将来につながる力を育てる重要な役割を果たしていることを学びました。

新潟医療センターの見学では、病院における歯科衛生士の専門性と役割の重要性を学ぶことができました。病院では障害や全身疾患を持つ患者さんが多く、歯科医師と歯科衛生士が連携しながら、患者さん一人ひとりの全身状態を把握し、安全を最優先に治療を行っていました。また、整形外科やMST、STなど多種職と協働し、患者さん

の口腔機能の維持・向上を通して生活の質を支えている点から、多種職連携の大切さを実感しました。

今回の実習を通して、歯科衛生士は歯科医師の補助にとどまらず、専門性と自立性をもって患者さんに関わる専門職であること、社会福祉士は利用者本人だけでなく家族や関係職種との調節を行い、不安に寄り添う存在であることを学びました。両職種に共通して重要なのは、専門知識だけでなく相手の立場に立って関わる姿勢だと感じました。この経験を基に、今後の学習や実習に生かしていきたいです。

歯学科三年 鎌田 星 歌

3年生前期に、早期臨床実習Ⅱが行われました。私たち3年生にとって、病院で行う実習は、1年生の時に経験した早期臨床実習Ⅰ以来となります。2・3年生で基礎科目を学んだうえで行われたこの実習では、1年生の頃とは異なる視点から多くの学びを得ることができました。また、1つの診療科あたり3時間という十分な見学時間が設けられていたことで、各診療科についてより深く理解することができました。

この実習を通して特に印象的だったのは、すべての診療科が基礎科目と強く結びついているという点です。なかでも口腔外科では、その繋がりを強く実感しました。実際の画像を用いた症例説明に加え、良性腫瘍と悪性腫瘍の違いや神経系との関係などについて、質問を交えながら丁寧に解説していただきました。これにより、解剖学・組織学・病理学など、これまで学んできた基礎科目が臨床の現場でどのように活かされているのかを、より具体的に理解することができました。

1年生では診療科の概要を学び、2年生で基礎科目の知識を修得し、3年生で早期臨床実習Ⅱに臨むことで、初めて基礎と臨床の密接な関係性を実感できたと感じています。基礎科目を学習している段階では見えにくかった臨床との繋がりも、実際の診療や先生方のお話を通じて理解が深まりました。先生方が基礎科目の知識とこれまで培っ

てこられた技術をもとに患者さんの治療を行っている姿を拝見し、改めて尊敬の念を抱くとともに、日々の積み重ねの大切さを強く感じました。

本実習を通して、自身の知識不足や基礎科目同士の理解の浅さに気づくことができました。今後は、基礎科目が臨床の土台となっていることを意識しながら、日々の学習やこれからの実習に取り組んでいきたいと思います。このような貴重な学びの機会を与えてくださった先生方や見学にご協力くださった患者さんにとっても感謝しています。ありがとうございました。

歯学科3年 五味 洵 成

まずはじめに私達学生のために、大切な時間を割いていただいた先生方にこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

私は早期臨床実習を終えて、今まで勉強してきたことが歯科医療と密接に関係していることが分かった。今まで勉強してきたことがどのように歯科と関係しているかということが自分自身理解できておらず、どうしてこのような知識が必要なのかということについて疑問に思っていた。しかし、いざ病院で診療を見学させて頂いたり、先生方とお話させて頂くと、基礎科目の重要性を実感させられた。解剖学、生化学、生理学、薬理学といった科目は単体で存在するのではなく、それぞれが複雑に絡みあっており、それらを学習することで人間の構造や体の反応を理解し、臨床の現場に必要な知識となっていると感じた。また、実際に患者さんを治療している現場を見学させて頂き、患者さんへの声掛けや治療説明、寄り添いといったコミュニケーション力が非常に大切だと再確認させられた。先生方は治療をするだけでなく、治療と共にコミュニケーションを患者さんと取ることによって、患者さんの精神的な面でも支えになっていると考えた。

現在自分は三年生の後期となり、実習の時間も増えており、模型に対してだが、実際の患者さんをイメージしながら行っている。早期臨床実習で実際に治療する現場を見させて頂いたからこそ実

習でも実際の治療をイメージしながらできるということを実感している。実習は精神的にも肉体的にも疲労があるが、毎回の実習で得られることをしっかり自分のものにできるように努めていきたい。

これから学年が上がるにつれてより今までの知

識が必要な場面が増えていくと思うが、その重要性を早期臨床実習で実感させられた。残りの学生生活では、自分の理想とする歯科医師になるためにも、知識、手技、コミュニケーションその全てを高められるように努めていきたい。

